サンデー毎日　2013年1月7日掲載

連載 会社の流儀 ㉛

京浜光膜工業（神奈川）

光をつかみ、光の可能性を追求！
光学薄膜部品のリーディングカンパニー

デジタルカメラはもちろん、大きな人気を獲得したスマートフォンに搭載されたカメラ内部には、京浜光膜工業株式会社の光を操る部品が使われている。和泉誠義社長は次のように説明する。

「『UV―IRカットフィルター』という部品があります。視感度補正フィルターとも呼ばれ紫外線と赤外線を遮断し、可視光を透過するものですが、これがカメラの中で大変重要な役割を担っているのです」

和泉 誠義 社長

カメラには光を感知して電気信号に変える半導体部品である撮像素子（CCDまたはCMOS）が搭載されている。この撮像素子は赤外線に強い感度を持っており、赤外線をカットしないと人の目と同じ色合いの画像（写真）にならない。さらに液晶の劣化を加速させる紫外線のカットも要る。赤外線と紫外線のカットのための素材はガラスや樹脂が使われるが、それ自体では性能が足りなく、光学薄膜で補う必要がある。この光学薄膜を同社は生産している。

薄膜の生成方法は様々あるが、同社は真空蒸着法を主に採用。真空蒸着とは、真空中で金属や金属酸化物などの成膜材料を加熱して溶融・蒸発させ、基板の表面に蒸発・昇華した粒子（原子・分子）を付着・積層させて薄膜を形成する技術だ。

「当社は1957年の創業以来、『光をつかむ』を座右の銘として、一貫して光学薄膜の分野で実績を積み業界をリードしてきました。特に大型真空蒸着機の保有台数は日本でトップクラスであり、大量安定生産を強みとしています」（和泉社長）

多彩な業界に製品を供給 モノづくりの技術に差

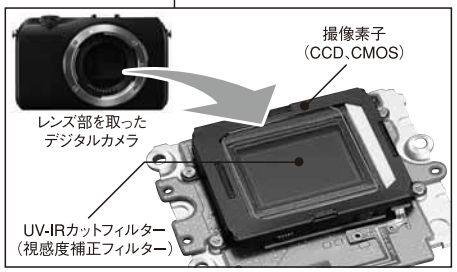
こうした強みから、世の中で多く利用される機器に同社の部品が用いられている。例えば、コピー機に搭載されるミラーや液晶プロジェクターに搭載される色分解ミラー・フィルター、偏光ビームスプリッター、DVD・ブルーレイディスクに搭載される光ピックアップミラー・フィルター、光通信用のフィルターなどを提供している。

最近は東京駅のライトアップの色調整フィルターや宇宙天文学の研究開発用・医療機器の部品など多彩な業界に製品を供給している。

真空蒸着機を同社より多く保有する海外企業が増えた。だが、蒸着を始めに、モノづくり全ての工程の技術においてはまだ優位にある。

和泉社長は展望を話す。

「光には無限の可能性がある。特に日本の光学薄膜の技術はますます進歩を遂げ、あらゆる産業分野で利用されていきます。映画の中での近未来の世界を実現する技術でもあります。さらに多くのお客様、様々な業界の方々に当社の光学薄膜部品を利用して頂き、世の中の役に立つ企業であり続けたいですね」（亀）



デジタルカメラに欠かせない要素を担う

秦野本社工場（岩手・中国にも工場を持つ）

【会社データ】
本社＝神奈川県秦野市堀山下24―20
☎＝0463―87―2002
設立＝1957年3月
資本金＝1280万円
従業員数＝500名（グループ含む）
事業内容＝真空蒸着法による光学薄膜製品の製造・販売など
http://www.keihin-opt.co.jp